目次

国際湿地都市 NIIGATA

資料２

１．計画改定の進め方

（１）計画改定の趣旨
（２）検討の進め方

２．生物多様性を巡る国内外の動向

（１）生物多様性とは
（２）生物多様性の危機
（３）国際社会の動向
（４）国内の動向（生物多様性国家戦略）
（５）県内の動向（新潟県生物多様性地域計画）
（６）本市の動向

３．改定計画の方針

（１）改定のポイント
（２）計画の構成の見直し

2. 生物多様性を巡る国内外の動向　（1）生物多様性とは

国際湿地都市 NIIGATA

生物多様性とは

自然の中では、多くの生き物がバランスを保ちながら、それぞれがつながって生きています。これを「生物多様性」と言い、食料や水、気候の安定など、私たちの暮らしにかけがえのない多くの恵みをもたらしています。

■ 3つの多様性

1 生態系の多様性

生態系の多様性とは、森林、里山、田畑、湿原、河川、海洋など、それぞれの環境にそれぞれ異なる生態系が成立することです。



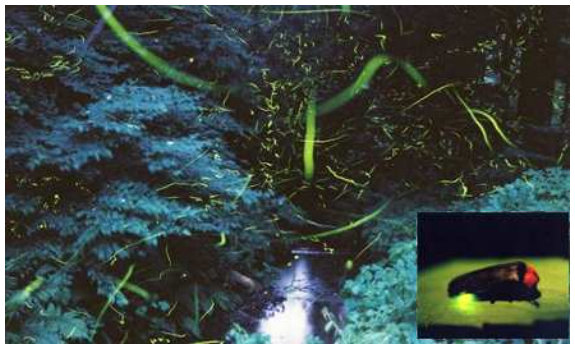
2 種の多様性

種の多様性とは、いろいろな動物・植物や菌類、バクテリアなどが生息・生育しているということです。



3 遺伝子の多様性

遺伝子の多様性とは「見た目で分かるもの」、耐寒性等の「見た目で分かるとは限らないもの」のように、同じ種でも、個体間では遺伝子に違いがあることを言います。



（1）生物多様性とは

国際湿地都市 NIIGATA

生物多様性の恵み

私たちの快適で安心・安全な暮らしは、食料や水、気候の安定など、多様な生物が関わり合う生態系から得ることができる恵み（生態系サービス）によって支えられています。

■ 4つの生態系サービス



生き物が生み出す
大気と水
（基盤サービス）



暮らしの基礎
（供給サービス）



文化の多様性
を支える
（文化的サービス）



自然に守られる
私たちの暮らし
（調整サービス）

（２）生物多様性の危機

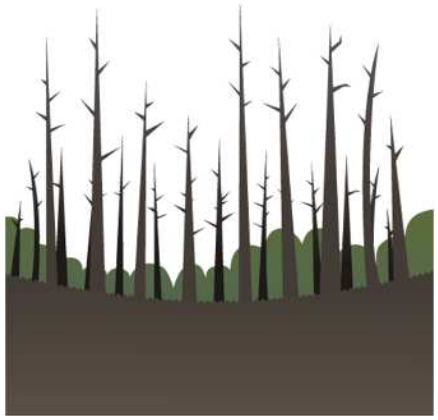
国際湿地都市 NIIGATA

私たちの暮らしはたくさんの生き物に支えられています。全ての生命の生存基盤となる生物多様性には現在、次のような危機が進行しています。

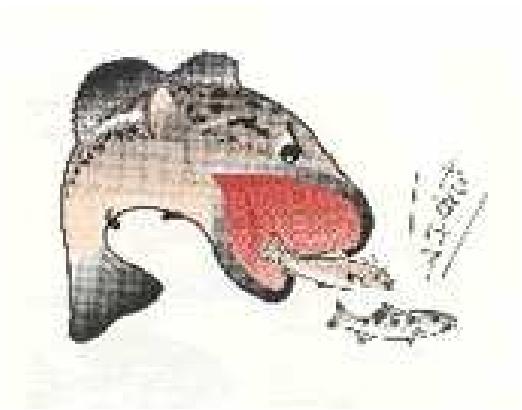
■ 生物多様性4つの危機



人間活動や開発
による危機



人間活動の
縮小による危機



人間により持ち
込まれたものに
よる危機



気候変動
による危機

画像出典：新潟県生物多様性地域計画

（３）国際社会の動向

国際湿地都市 NIIGATA

1992年に開催された地球サミットで生物多様性条約が採択され、地球規模の環境問題や生態系の価値が強く認識された。1993年5月に日本は条約を締結。

2010年に、名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議が開催され、「自然と共生する社会」の実現に向け、「生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する」ことを目標とした戦略計画2011－2020及び愛知目標が採択。

その後、生物多様性条約第15回締約国会議（「COP15」）において**「昆明・モントリオール生物多様性枠組」**が採択。

2050年ビジョンとして**「自然と共生する社会」を引き続き掲げる**とともに、2030年ミッションとして**「2030年までに自然を回復軌道に乗せるために生物多様性の損失を止め反転させるための緊急の行動をとること」**が掲げられ、2030年までに陸域、内陸水域、沿岸域及び海域の少なくとも30%を効果的に保全する**「30by30目標」**などが設定。

（４）国内の動向（生物多様性国家戦略）

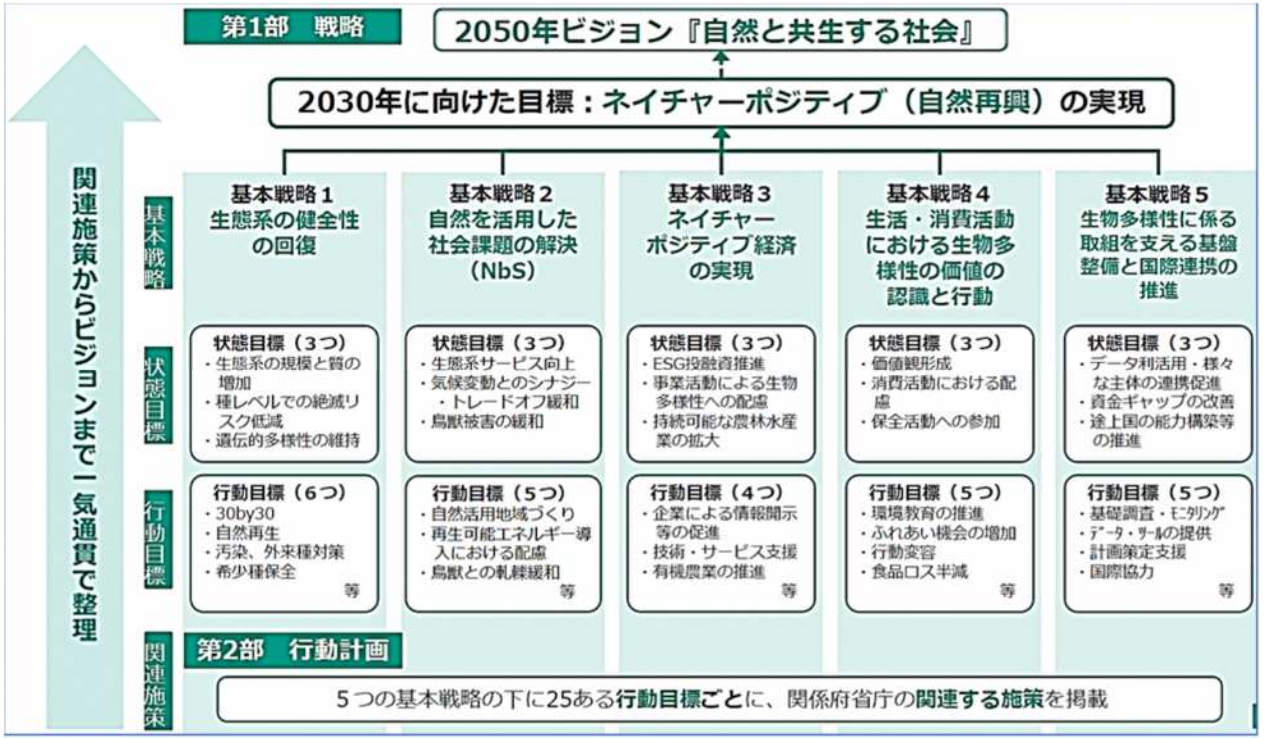
国際湿地都市 NIIGATA

国では「昆明・モントリオール生物多様性枠組」の達成に向け「生物多様性国家戦略2023-2030」を策定

2050年ビジョン「自然と共生する社会」の達成を目指し、2030年に向けた目標「ネイチャーポジティブ（自然再興）」の実現を目指すこととした。

<u>自然共生サイト：民間等の取り組みによって生物多様性の保全を「維持・回復・創出」する活動を行う特定の区域</u>

■ 生物多様性国家戦略（2023-2030）の骨格



※環境省「生物多様性地域戦略策定の手引き」より抜粋

（５）県内の動向（新潟県生物多様性地域計画）

国際湿地都市 NIIGATA

新潟県_計画の構成

基本理念　人と生きものが共生する魅力ある新潟の創造

基本目標

- 豊かな自然環境と生物多様性の保全
- 生物多様性を育む社会づくりと継承
- 生物多様性の恵みによる生業とくらしの充実

施策の展開

1 生態系の保全・再生　2 希少野生動植物への取組　3 外来種への対応

4 野生鳥獣の保護管理　5 地球温暖化・気候変動の影響への対応

6 生物多様性の保全に取り組む人づくり・社会づくり

■ **計画期間**　2017（平成29）年度～2028（令和10）年度（12年間）

※4年ごとに見直し

（５）県内の動向（新潟県生物多様性地域計画）

国際湿地都市 NIIGATA

新潟県_各施策に関する指標

■ 主要指標

項目	現状値	目標値
県民からみた自然環境に関する満足度	74.0 %（R6）	76.0 %（R10）

■ 指標

項目	現状値	目標値
県民の生物多様性の認知度	27.0 %（R5）	向上（R10）
温室効果ガス排出量削減率（基準年：H25）	28.6 %（R4）	R12に基準年比46%削減
自然公園・自然環境保全地域等の面積割合	29.6 %（R4）	29.9%(R10) 30.0%(R12)

■ モニタリング指標

項目	現状値
自然公園指定面積	317,406 ha (R6)
自然公園来場者数	9,495千人 (R4)
自然環境保全地域面積	2,044 ha (R5)
レッドデータブックにいがた改訂	10/11分類群(R5)
外来種リスト作成	―
トキの野生生息数	576羽（R6）
野生鳥獣による人身被害	9 件（R5）
野生鳥獣による農作物被害	257百万円(R5)
鳥獣保護区面積	152,968 ha(R5)
狩猟免許所持者数	3,383人(R5)
環境学習施設の来館者総数	31,133人(R5)
県内_自然共生サイト(OECM)認定数	2箇所(R6)
地域戦略を策定した県内市町村	3市町村(R6)

（6）本市の動向

国際湿地都市 NIIGATA

現行計画の振り返り：体系

◎認識

私たちは、人の関わりによって豊かな新潟の自然環境を永々と利用してきた一方、過度な改変も行ってきました。

◎保全に向けた原則

多くの命と共に生きる自然環境を人との適切な関わりにより、守り育てていくとともに、持続可能な利用を行っていきます。

◎新潟市の目指すべき将来像（長期目標）

まちを包み込む多様な水と緑の自然環境に支えられ、多くの命と共に生きる暮らしを創出

◎将来像の実現に向けた目標（短期目標）

生物多様性の重要性を認識し、自然環境の保全に向けた取り組みを展開

◎基本的な方針

Ⅰ　在来の動植物の生息・生育環境の保全・再生	Ⅱ　自然環境の持続可能な利用の推進	Ⅲ　人材育成・協働の推進	Ⅳ　地球温暖化防止などの推進
【施策項目】 ア：新潟市の在来の動植物を守ります イ：動植物の生息・生育環境を守ります ウ：動植物の生息・生育情報を収集・蓄積します	【施策項目】 ア：生物多様性の保全に配慮した暮らしづくりを進めます イ：事業者などに生物多様性の保全に配慮した事業活動を求めます	【施策項目】 ア：生物多様性保全の担い手の育成を図ります イ：市民参加・協働を進めます	【施策項目】 ア：地球温暖化対策実行計画を推進します

（６）本市の動向

国際湿地都市 NIIGATA

現行計画の振り返り：数値目標の達成状況　その１

≪平成27年度_数値目標改定≫

指標	基準	目標値(R4)	現状値(R7)	目標達成度	補足	担当部
特定外来生物の種類	10種(H25)	基準より減少	16種	△	市環境基本計画の参考指標	環境部
市民探鳥会参加人数	109人(H26)	200人	―	―	R4～団体との共催や個別に探鳥指導員を講師として開催（初心者向け）	環境部
佐潟ボランティア解説員活動人数	205人(H26)	250人	193人	△	例年、一定数から参加いただいている	西区
生物多様性の象徴としてのハクチョウとの共存	日本一の越冬数(H25)	基準を維持	日本一を維持(8,940羽)	◎	市環境基本計画の参考指標	環境部
環境保全型農業を実施する農地の割合	34.40％(H25)	50％	―	―	現在は「環境への負荷を低減させる取組みを行う農地の面積」	農林水産部
福島潟クリーン作戦参加者数	700人(H26)	750人	600人	○	例年、一定数から参加いただいている	北区

※目標達成度　◎：目標を達成、○：目標を概ね(80%以上)達成、△：目標を下回った

（６）本市の動向

国際湿地都市 NIIGATA

現行計画の振り返り：数値目標の達成状況　その２

≪平成27年度_数値目標改定≫

指標	基準	目標値 (R4)	現状値 (R7)	目標達成度	補足	担当部
にいがた生きものサポーター現地体験会参加者数	延べ112人 (H26)	延べ300人	―	―	サポーターとしての実施は無く、個別に昆虫観察会など実施	環境部
里潟学術研究委託事業件数	2件 (H26)	3件	―	―	一定の成果を得たことにより、H29年度に事業終了	環境部
水がよりきれいなランクになった河川・湖沼の水域数	― (H25)	3地点	0地点	△	H25相当類型（15地点中11地点で県の類型指定よりも高水準）を基準としているため、ランクアップは難しい	環境部
美しい農村景観の形成を行う農地の割合	78％ (H25)	90％	86.3％	○	多面的機能（食料供給以外の機能）支払交付金事業の対象農地割合	農林水産部
地産地消推進の店認定数	小売店69 飲食店153 (H26)	小売店80 飲食店180	小売店96 飲食店77	△	小売店は目標を上回る認定数となった	農林水産部
廃食用油等の回収・利活用量（BDF）	82,000ℓ (H26)	110,000ℓ (H30)	―	―	事業終了（費用対効果が見込めない等）	環境部

※目標達成度　◎：目標を達成、○：目標を概ね(80%以上)達成、△：目標を下回った

（６）本市の動向

国際湿地都市 NIIGATA

現行計画の振り返り：数値目標の達成状況　その３

≪平成27年度_数値目標改定≫

指標	基準	目標値 (R4)	現状値 (R7)	目標達成度	補足	担当部
下水汚泥のリサイクル率	100％ (H26)	100％	75.2％	△	セメント原料等へのリサイクルの余剰分は焼却など	下水道部
園芸相談の相談件数	7,198件 (H26)	10,000件	3,455件	△	Web検索による減少があるものの、一定の需要はある	農林水産部
食と農の学校参加者数	123人 (H26)	150人	―	―	H30事業終了。食と農のわくわくSDGs学習などを実施。	農林水産部
食育・花育センターが実施する花育体験プログラム等の実施団体数	30団体 (H25)	70団体	98団体	◎	学校・園などから多くの活用が見られる	農林水産部
保育所、幼稚園、小学校の地域との連携による花育活動実施率	48％ (H25)	60％	79％	◎	花育マスター制度の活用の普及が見られる	農林水産部

※目標達成度　◎：目標を達成、○：目標を概ね(80%以上)達成、△：目標を下回った

（６）本市の動向

国際湿地都市 NIIGATA

現行計画の振り返り：数値目標の達成状況　その４

≪平成27年度_数値目標改定≫

指標	基準	目標値 (R4)	現状値 (R7)	目標達成度	補足	担当部
佐潟水鳥・湿地センター年間来館者数	69,598人 (H26)	75,000人	41,363人	△	コロナ禍で数が減った年度もあるが、持ち直しが見られる	西区
水の駅「ビュー福島潟」来館者数	100,563人 (H26)	110,000人	107,308人	○	継続した来館者数を維持	北区
「にいがた生きものファンクラブ」登録数	436件 (H26)	2,000件	―	―	R3事業終了。潟のデジタル博物館(HP)等で情報発信	環境部
教育ファーム（農業体験学習）取り組み小学校割合	86.7％ (H25)	各年100％	100％	◎	アグリパークの活用が広く展開されている	農林水産部
公民館での環境教育事業の参加者数	850人 (H26)	900人	757人	○	環境講座のほか、環境美化活動などのイベントも開催	教育委員会事務局

※目標達成度　◎：目標を達成、○：目標を概ね(80%以上)達成、△：目標を下回った

（６）本市の動向

国際湿地都市 NIIGATA

現行計画の振り返り：数値目標の達成状況　その５

≪平成27年度_数値目標改定≫

指標	基準	目標値 (R4)	現状値 (R7)	目標達成度	補足	担当部
緑化活動推進事業の実施団体数	390団体 (H26)	400団体	293団体	△	一定数の活用が見られる	土木部
にいがた市民環境会議会員数	33団体 (H26)	40団体	23団体	△	継続して活動を実施している	環境部
環境フェア参加人数	17,208人 (H26)	30,000人	1,100人	△	開催形態の見直しにより数は減少	環境部
市域の温室効果ガス排出量	694万-tCO2 (H23)	624万-tCO2 (H30)	550.1万-tCO2	○	着実に減少傾向が見られる	環境部

※目標達成度　◎：目標を達成、○：目標を概ね(80%以上)達成、△：目標を下回った

（6）本市の動向

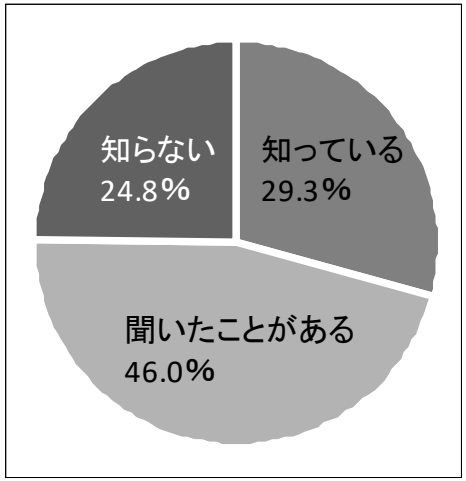
国際湿地都市 NIIGATA

現行計画の振り返り：アンケート結果（「生物多様性」の認知度）

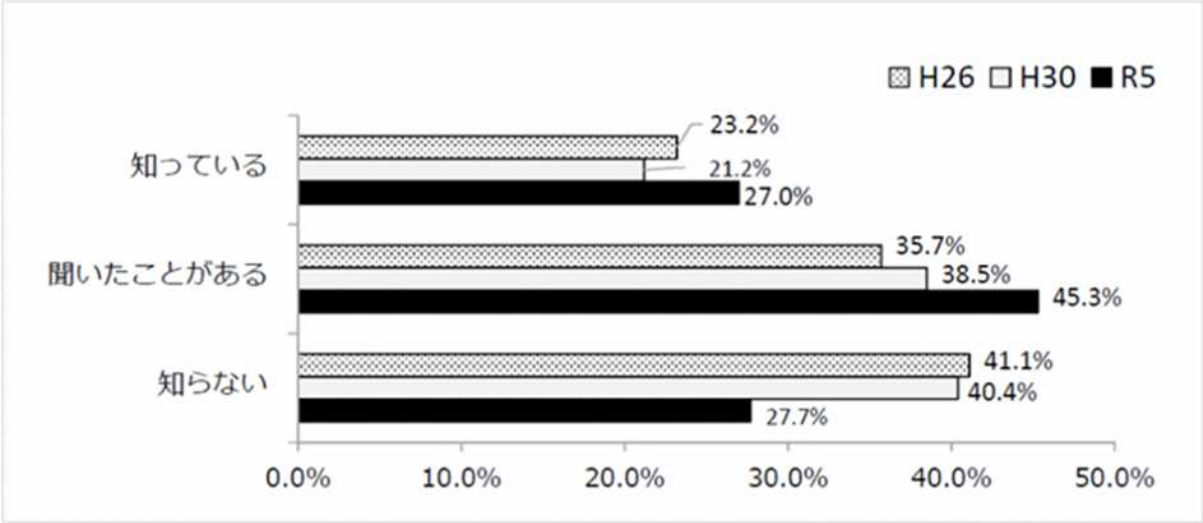
■ 現行計画策定時

単位：人

回答者数	400
知っている	117
聞いたことがある	184
知らない	99



■ （参考）新潟県アンケート結果



※<u>現在、生物多様性に関するアンケート実施中</u>

（市HP、にいがた市民環境会議、生物多様性関連イベントなど）

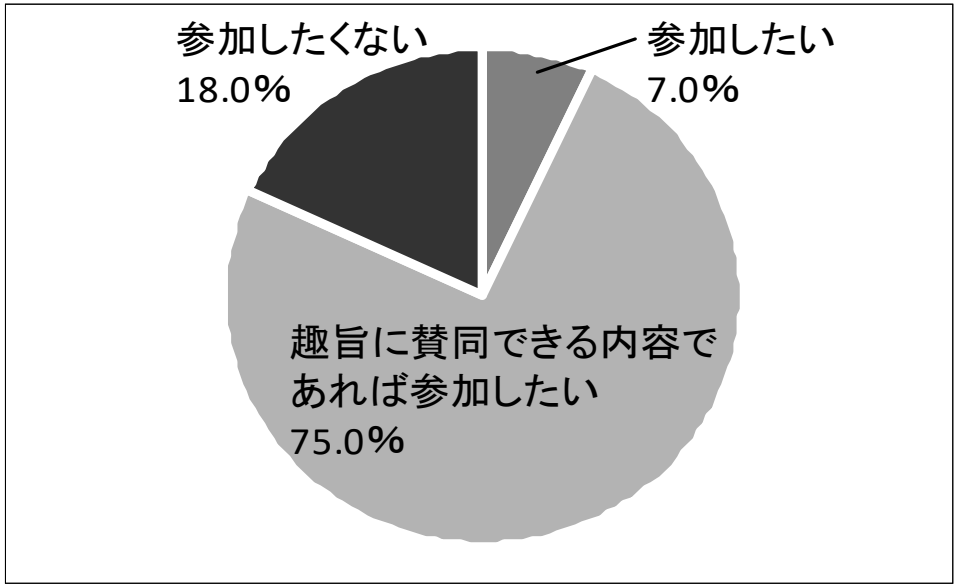
（６）本市の動向

国際湿地都市 NIIGATA

現行計画の振り返り：アンケート結果（自然環境保全活動への参加意欲）

単位：人

回答者数	400
参加したい	117
趣旨に賛同できる内容であれば参加したい	184
参加したくない	99

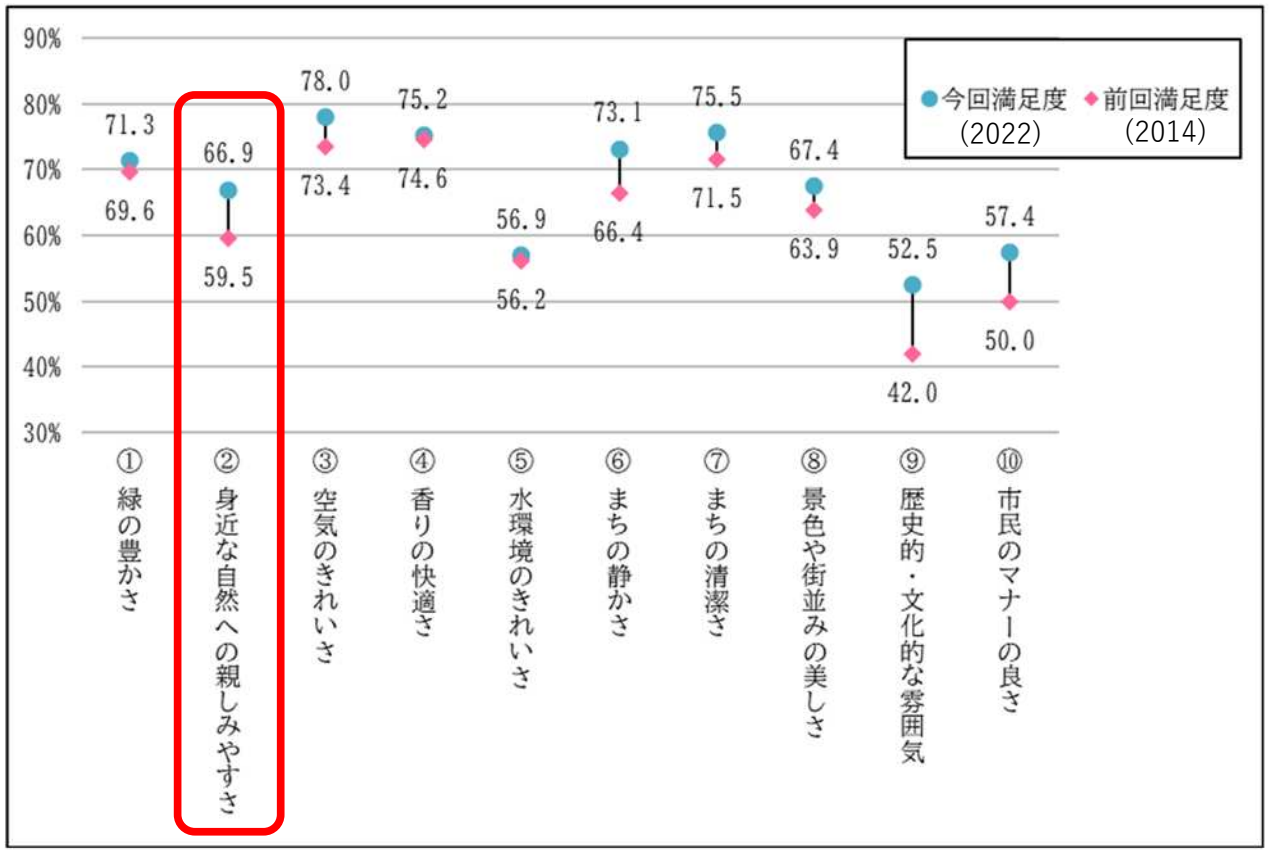


（6）本市の動向

国際湿地都市 NIIGATA

※アンケート結果（身近な自然への親しみやすさ）

※第4次新潟市環境基本計画改定時の基礎資料



（6）本市の動向

国際湿地都市 NIIGATA

30by30目標達成への貢献に向けて

■ 自然共生サイト認定取得

◎ 令和6年度：東区「じゅんさい池」（新潟市）

・市内では初めての認定。

・「生物多様性の恵みを市民に提供する場」「都市域に残る貴重な緑地・湿地環境」「希少な植物の生育の場」として価値が認められた。

◎ 令和8年度：北区「十二潟」（NPO法人いいろこ十二潟を守る会）

・民間団体による取得は市内で初めて。（じゅんさい池認定取得で培った知見を地域へ展開）

（6）本市の動向

国際湿地都市 NIIGATA

■ **30by30達成状況**

保全地域種別		面積（km²）	場所
保護地域	国定公園	14.56	佐渡弥彦米山国定公園（県鳥獣保護区重複を除いた面積）
	国鳥獣保護区	2.31	福島潟
		2.51	佐潟
	県鳥獣保護区	48.18	新潟角田
		2.64	鳥屋野潟
		5.55	秋葉
		10.28	弥彦（新潟市区域分）
	県自然環境保全地域	0.024	菖蒲塚（西蒲区竹野町）
OECM（自然共生サイト）	じゅんさい池	0.073	東区松園
	十二潟	0.026	北区灰塚

86.05km²（保護地域）+0.099km²（OECM）／市の面積（726.01km²）＝<u>11.9 %</u>

（６）本市の動向

国際湿地都市 NIIGATA

ラムサール条約湿地都市認証の取得

◎ 令和4年に国内で初めて「ラムサール条約湿地都市認証」を取得

湿地の保全・再生や環境教育等の全12項目の国際基準を満たす自治体に対し、認証を行うもの。

⇒潟だけでなく、川や田んぼなど市内の湿地で地域住民などの賢明な利用を進めていることが世界に認められた。

■ 主な取組事業

・佐潟再生事業（ハス再生（アカミミガメ等防除））
・潟のガイドブック
・新潟市里潟ガイド
・「国際湿地都市NIIGATA」を通じた湿地の魅力発信

（6）本市の動向

国際湿地都市 NIIGATA

大型獣の出没増加

・近年、ツキノワグマによる被害が全国的に社会問題化している。本市も秋葉区で出没が見られる。
・西蒲区の山間部を中心に、イノシシが増加している（H27出没:0件 ⇒ R7出没:164件）
・ニホンジカの目撃も散見され、今後増加した場合、生態系への影響が懸念される。

